

【本部町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

児童・生徒が主体的に「問い」をもち、効果的に ICT を活用し、他者との交流を図りながら、課題(問い)を解決し、その考えを他者へ発信できるようになることで、未来を創造していく力を身につけていく。そのために1人1台端末をはじめとする ICT 環境を積極的に活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させることで「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。その際に、一斉授業か個別学習か、デジタルかアナログか、オンラインか、対面かといった「二項対立」ではなく、どちらの良さも適切に組み合わせて生かしていく学びを推進する。

2. GIGA 第1期の総括

令和2年度に小学校4校、中学校3校に合計1,352台(chromebook)の1人1台端末と、各学校のネットワーク環境の整備をしている。本格稼働後、帯域圧迫がみられたことから、令和3年度に瀬底小学校、令和5年度に本部小学校、令和6年度に本部中学校及び上本部学園(上本部小、中学校)について順次、ローカルブレイクアウトを実施し、帯域圧迫の解消を行った。

ICT 支援員を3.5校に1人の割合で任用し、教職員の研修及びサポート、機器類の不具合対応等を実施した。サポートは操作支援や授業準備、校内研修、小グループ研修での対応など、教職員のニーズに対応できるように努めた。また年間を通して各学校の ICT リーダーに対して研修を実施し端末活用の促進に努めた。

しかしながら、端末の持ち帰りや授業での活用等に学校間での格差が見られるとともに、児童生徒の端末の適切な取り扱いや情報モラル教育に課題が見られた。

そこで、教員の ICT 活用力のさらなる向上を目指し、全ての学校が授業や校務において、利用格差を是正し、積極的に ICT の活用を図ることができるよう、これまでの研修等の取組に加え、これにより教員が ICT 活用について、協働的に対話を行うとともに、互いの教育実践から ICT を活用した指導法や校務 DX の改善について学び合う機会をつくることにより、課題解決につなげていきたい。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の利用により「個別最適な学び」の充実を図る。その際に、ICT を活用し学習履歴や生徒指導上のデータを利活用することで、一人ひとりの児童生徒の興味、関心や意

欲に応じた学習活動の機会を提供する学習の個性化を目指していくことが重要である。

また、1人1台端末の利用により、個々の家庭状況や学校教育になじめない児童生徒に対する学びの機会の保障や地理的条件に影響されない教育の機会均等を確保することができる。

汎用型クラウドサービスを活用し、データを共有することで、友達の進捗を手がかりに学びを深めたり、共同編集機能を活用して協働する他者の意見を尊重しながら自分の意見をまとめる力を身につけさせることができる。児童生徒が端末の適切な使い方が判断できるよう、ネットモラル教育をさらに充実させることで、端末の安心・安全な活用ができるとともに、端末の持ち帰りや授業での活用促進につなげていきたい。

1人1台端末の利用を推進するためには、教職員のICTリテラシーのスキルアップが必須である。ICT研修の充実を図ることにより学校間、学級間、教職員間の利用格差の是正に努めたい。

このような学習を進めていくために、1人1台端末の整備、更新により児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持する。